

【令和5年度 宮崎県立宮崎南高等学校 学校関係者評価】

評価項目 目標	具体的な方策	成果◎と課題▲ 【 各部の1・2学期反省より 】	自己評価		次年度以降の改善策	学校関係者評価	
			項目別	総合		評価	
						項目別	総合
I 学力向上 ①3年間を見通した南高スタイルによる教科指導の充実 ・各学年に応じたきめ細かな指導体制の確立 ・授業充実と放課後活用での個に応じた指導充実	■55分授業 ・放課後の有効活用 ■シラバス・学習評価方法 ・新学習指導要領対応	◎55分間を生かした授業の構築を各先生方が行っており、より深い学びへ繋がっている。 ▲移動コマの問題など、要継続協議 ◎評価方法など徐々に職員に浸透 ▲適切な評価が行われているか検証する必要がある。	3.0	総合	・より充実した授業研修を行い、55分授業の良さを最大限に生かす。 ・評価については、随時確認を行い、より良い評価ができるようにする。 ・受験指導の最重要学年＝1年次という認識のもと、各教科「南高スタイル」を作成。 ・フロンティア科と切磋琢磨するような仕掛けを構築する。 ・ハイレベル模試必須受験や外部講演会への積極的参加。	3.0	・55分授業の定着化、及び難関校を目指す生徒への組織的な指導を行うなど、学力向上をねらいとした取組が行われた。 ・成績評価（5～1）の方法（基準）が変わるとの説明を受けたが、適切な対応が求められると感じた。 ・次年度、選抜クラスを設置するなど工夫改善を図られているので、引き続き頑張っていたきたい。 ・生徒目線のきめ細やかな取り組みに挑戦されており、学力向上に努められている。
	■自然学級（1年生）	◎次年度より習熟度上位クラスを1クラス1年次に設置 ◎7月→11月進研模試（普通科のみ）GTZ推移…B2以上累積128名（R4/116名、R3/131名）→152名（R4/142名、R3/134名）、A3以上累積14名（R4/18名、R3/22）→28名（R4/37名、R3/24名）、が表すように現1年生も着実に力をつけている。			・8月と12月に問題検討会の時間を十分に確保する。 ・本校生徒の特色を生かしたカリキュラムの編制と検証。		・普通科高校である以上、進学実績が中学生、保護者の評価となる。上位層の引き上げはもちろん、全体的な学力向上が求められているのではないかと。
	■南模試（1・2年生 9月・1月）	◎昨年度と同様のコンセプトで実施 ▲学年平均得点率が20%～50%と教科による難易度のばらつきが見られる。 ◎2年生の試験科目に情報Ⅰを導入 ◎他校の取組事例と比較しても十分な対策が実施できている。			・昨年度の永海道高校の事例を採り入れ改革を行ったように、教務・生徒指導・進路指導など全般に先進事例を活用していく。		・難関大学へのチャレンジが増え、着実な対応がなされるとともに、一人ひとりの能力や得意分野が大切にされるように期待する。
	■放課後セミナー（3年生）	◎講座制で実施 ▲九州大学レベル以上の希望者は多いが、個別指導などのマンパワーに依存 ◎超難関校受験希望者へは2年次より個別指導を実施。			・2年生向けには放課後指導の継続、3年生向けには朝補習の選択科目に加える。		・先進校視察等での情報交換を行ったりすることで、より生徒の学力向上に繋げていきたい。
	■先進校視察	◎広島県立呉三津田高校、広島県立安芸市高校、宮崎西高等学校を訪問し、進路指導・学力向上、教育課程編成、探究的な学び、生徒募集の在り方等について視察。					
■各種通信（部・学年・教科）	◎3学年とも学年通信を毎週発行し、学年団の様々な先生方の考えを伝える貴重な機会となっている。						
■次年度教育課程の検討 ・R7共通テストの「情報Ⅰ」対応	◎2年生に情報Ⅰの対策を終礼後に実施 ◎南模試でも高2の試験科目として導入 ▲新課程初の入試を前に文科省通達、民間受験産業の情報収集・周知に努める。						
②難関校を目指す生徒への組織的な指導の充実 ・ハイレベル講座やチームによる指導の実施	■南セミナー（1,2年） ■放課後セミナー難関コース（3年） ・放課後ハイレベル講座	▲1、2年生とも実施しているが、安易な欠席が目立つ。 ◎本校の売りの1つである放課後の時間帯の有効活用となっている。 ◎上位層の意識付けになっている。 ▲先生方への負担	2.8	総合	・放課後セミナー難関講座受講と二次特編授業の難関講座受講に連続性を持たせる。	3.1	・「探究学習」「地域連携」によって、「学力向上」に関して生徒や教師、学校がどのように変容したのか検証していただきたい。
	■ハイレベル模試	◎希望者について実施 ▲F科生徒全員を対象としたハイレベル模試の受験について検討中			・1年生アドバンスクラスおよびフロンティア科は全統記述模試を一斉受験。 ・年度が進行するにつれて授業数の増加が補えるかが課題となっている。		
	■探究コース（フロンティア科） ・文理混合で少人数指導クラス設置	◎上位層の育成、探究活動の充実、更なる進路意識と学力向上に貢献できた。 ▲難関大学受験者の増加の効果的な取組について検討する必要がある。					
③基礎学力定着指導の徹底 ・自主学習の定着指導と部活動との両立支援	■スタディーサポート（学びの基礎診断）	▲振り返りを講師を招いて実施する予定であったが、オンラインが中心となってしまった。 ◎1・2年学力検討会・スタサポ分析会を学年主任を中心に実施	3.0	総合	・3年間を見据え、国数英のヌケ・モレを克服し、3年1学期までの国数英の基礎基本の完成を目指し、「南高スタイル」を確立していく。 ・年度末に職員研修会を開催し、新機能の配信方法、個別最適な問題配信方法について学ぶ。	3.0	・文章の読解力の養成が課題に挙がっているが、文芸活動の促進、例えばみやざき文学賞への応募などは、良い機会になるのではないかと。高校生と大学生の応募が増えており、学校の指導で応募しているケースが多い。随筆などを書くこと、読解力向上にもつながり、小論文への基礎力定着にもなるのではないかと。
	■Classi活用	◎進路希望調査をクラッシーのアンケート機能で実施 ▲国数英では模試ごとに単元別問題配信も行えるが実施までに至っていない。			・長期入院での配信などは、その都度検討する。		
	■授業配信	◎授業配信のノウハウが教員・生徒に、一定程度以上確立してきた。 ▲原則として、新型コロナウイルス感染症以外では授業配信は実施しない。			・南模試実施後の教科・科目ごとの事後検討会を組織的・計画的に開催する。 ・教科代表者会で学年・教科・科目毎の得点状況を提供し、校内で競い合う気運を組織的に醸成していく。		
	■デジタル採点システム	◎本年度より本格導入。全先生方に利用していただいている。操作等の混乱はほとんどなく順調に浸透してきた。 ◎生徒個人の学習状況の分析やクラス間の成績状況の確認が容易となった。			・定期考査でも徐々に文章読解力を養成する問題の導入を検討する。 ・朝読書の時間における「速習ドリル」（各教科編）の導入を検討していく。		
■文章読解力の育成	▲南模試もしくは定期考査の作問では、文章読解力の養成を主眼の一つにおいていただくように依頼し、問題内容の充実を図っている。図表読解力も重要要素の一つであるが、「深い学び」による初見の問題にも動かない確かな学力を養成しなければならない。						

<p>2 進路目標の達成</p> <p>①進路指導体制の充実</p> <p>・国公立大学総合型・学校推薦型選抜制度の積極的な活用</p>	<p>■各種模擬試験</p> <p>■小論文・面接指導</p> <p>■各種講座(放課後・土曜)</p> <p>■学力検討会・進路判定会</p> <p>■朝補習</p> <p>■面談材料提供のための職員研修会</p>	<p>◎全学年で例年通り実施 ▲コロナ禍以降、安易な欠席が散見される。</p> <p>◎全先生方に依頼。組織的に対応</p> <p>◎学習会の実施(3年生)、加えて1・2年も自主的に開催している。</p> <p>◎クラスの現状報告、各教科からの意見等を話合うことができた。</p> <p>◎完全希望制で実施。極端に不受講者が多くなることはなかった。 ▲講座制等の導入について要検討</p> <p>◎小論文指導のオンデマンド動画が視聴できるようになっている。</p>	<p>・模試の重要性、模試の受け方、受験後の活用方法など、FORMの段階で詳細に説明していく。</p> <p>・宮崎大学とも連携しながら指導する立場の教師向け研修会も夏場に導入できるよう調整していく。</p> <p>・1学期終業式後、各種外部講座を開催しているが、参加者が少ない。担任からの個別呼びかけを強化する。</p> <p>・進路判定会はどうしても長引くが、貴重な面談材料となる。一方で、部分的な参加の検討も必要。</p> <p>・新体制初年度であったので臨機応変な対応になったが、習熟度制など教科内で柔軟に対応してもらおう。</p> <p>・外部研修会のみならず、校内の教師による研修会も企画していく。</p>	<p>・入学試験が多様化する一方で働き方改革などの問題もあり、先生方も対応が難しいのではないかと。外部依存はよくないが、柔軟に活用して、生徒の進路目標達成にご尽力いただきたい。</p> <p>・「探究学習」「地域連携」によって、「進路指導」に関して生徒や教師、学校がどのように変容したのか検証していただきたい。</p> <p>・外部の教育力の活用については、大学や民間企業等の活用を図りながら積極的な進路目標の達成につなげられていた。</p>
<p>②外部の教育力の活用</p> <p>・産学官連携による探究活動等の推進</p>	<p>■高大連携</p> <p>■出前講座・体験講座</p> <p>■進路講演会</p> <p>■探究活動</p> <p>■外部発信・PR</p> <p>■各種発表会・コンクール・校内発表会</p> <p>■卒業生による進学講話</p> <p>■オープンキャンパス、外部講座への参加</p>	<p>◎宮崎公立大学と連携協定を結ぶ(9月)。</p> <p>◎宮崎県教員ガイダンス、第一薬科大学出前講座、ミヤダイ工学塾などを実施 ◎南九州大学の後援のもと、初の小高大連携事業を実施。</p> <p>◎3学年PTA時にベネッセ顧問・田川先生を講師に招き、受験生としての心構えを熱く語っていただいた。</p> <p>◎「三菱みらい育成財団」の採択継続 ◎県内の6大学以外にも第一薬科大学からもメンター補助が可能になった。</p> <p>▲外部との連携の在り方について、持続可能な連携の仕方を検討中 ▲MSECやサイエンス発表会以外の発表会への開拓</p> <p>◎本校HP、フェイスブック、インスタグラム、クラッシーを活用して、緊急時の対応及び各行事における生徒の様子等をスムーズに配信できた。 ◎探究活動においてインスタグラムを活用し外部発信を行う生徒が増加。 ▲HPやSNSの活用について、関係部署との円滑な連携を通して、様々な方面から本校の魅力発信を行いたい。</p> <p>◎トリコン分野発表会(1年生)、生徒研究発表会(2年)を例年通り12月に本校体育館で開催予定。連携外部機関の方に審査を行っていただく。 ◎生徒研究発表会(2年生)にて保護者観覧を実施 ▲トリコン分野別発表会(1年生)でも保護者観覧の実施を検討 ◎MSECやサイエンス発表会以外の発表会への参加生徒が増加した。</p> <p>◎例年通り3月に実施予定</p> <p>◎九州大学オープンスタールへの参加企画が復活し、20名程度が参加した(同窓会より一部補助)。</p>	<p>・連携の強みを探究活動以外の面でも強化していく。</p> <p>・大学教員、大学生から受ける影響力は大きい。小中学生と接することでも新たな気づきもあるため、異校種間交流も継続していく。</p> <p>・学年全体に限ることなく、大小様々な単位で、刺激となるような講演会を開催していく。</p> <p>・県のキャリア教育コーディネーターに支援を依頼予定</p> <p>・本校FBは4月下旬～、本校インスタグラムは6月中旬から開設。</p> <p>・インスタグラム(フェイスブック)の投稿数210(R6.2.19現在)、フォロー数941</p> <p>・生徒主体の情報発信体制を充実させ、上記数値の向上を目指す。</p> <p>・今年度実施した2学年での保護者観覧の反省を生かし1学年でも実施予定</p> <p>・実施形態については聞き手側の立場に立って効果的なものに柔軟に対応していく。</p> <p>・1、2年次にオープンキャンパス参加を終えられるよう、入学時からその必要性を訴えていく。</p>	<p>・大学等との連携を歓迎する。活動・発表等様々な参加をさらに促してほしい。</p> <p>・大学との連携も図られているので、より一層の外部の人材活用を図ると良いと思う。</p> <p>・小学校、高校、大学と縦の繋がりを基調としたオリジナルの連携事業を実施され、新たな視点を模索されている。</p> <p>・「三菱みらい育成財団」からの支援は素晴らしい取り組みであると思う。積極的に外部資金・支援を得る取り組みは、他校との差別化において重要であると考えられる。同時にメディアを活用した広報にも力を入れられ、受験生にも知ってもらえると良いかと思う。</p> <p>・「三菱みらい育成財団」からの支援、県内外大学との連携およびメンターとしての協力など、取り組みとしては素晴らしいが、この持続可能性について検討し、適切な対応をとられることが求められると思う。大学等との連携協定の中に必要な支援について盛り込むことも有効かと感じた。</p> <p>・外部との連携をとり、出前講座・体験等により出来るだけ早いうちから進路目標が持てるよう、外部との連携が進むよう、期待する。</p> <p>・SNSでの発信等もあり、更なる発展を期待する。</p>
<p>③特化した進路指導体制の確立</p> <p>・連携大学等への進学を目指す生徒の育成</p>	<p>■ひむか共創人財育成塾および教師みらいセミナー</p> <p>■宮崎大学・宮崎公立大学出前講座</p>	<p>◎教師みらいセミナーは継続実施</p> <p>◎9月13日(水)6・7限目に実施。宮崎大学から10名、宮崎公立大学から2名の講師が来校</p>	<p>・連携の強みをフルに活かし、地元へ貢献する人材の育成に積極的に協力していく。</p> <p>・宮崎大学からは医学科を除く9名、宮崎公立大学からは3コースの先生に講師を依頼し、継続していく。</p>	<p>3.2</p>
<p>3 豊かな人間性の醸成</p> <p>①安全・安心に配慮した教育活動の推進</p>	<p>■避難訓練</p> <p>■いのちを大切に教育</p> <p>■いじめ・リクエスト相談</p>	<p>◎年度初めに避難経路の確認、消防と連携し避難訓練を実施できた。</p> <p>▲2学期実施予定の2回目の避難訓練では、土砂災害等を想定し全生徒・職員がどの場所でも迅速な対応ができるように訓練を計画したい。</p> <p>◎本年度も「命について考える」実践に取り組み、97%弱の生徒が命について考える機会になったと回答した。 ▲いじめアンケートを実施し、2回を平均すると約96%の回答率となった。さらなる回答率の向上を目指したい。 ▲リクエスト相談をいじめアンケートと</p>	<p>・中途退学者等が3年生は3年間で19名、2年生は21名、1年生は12名と非常に多い。積極的な進</p>	<p>・防災研修・訓練を更に充実・強化してほしい。地域との共生を考える機会ともししてほしい。</p> <p>・いじめ・ハラスメントの理解・対応・防止をふくめ相談の機会、スクールカウンセリングをさらに強化してほしい。</p>

	<p>異なる時期に実施し、相談を受けつける機会を増やした。</p> <p>■スクールカウンセラー ・希望生徒や保護者に対して月1回程度実施</p> <p>■生活支援員</p> <p>■施設設備の管理</p>	<p>▲SCによるカウンセリングを希望する生徒や保護者は、時期によって人数に差が出るが、柔軟に対応することは難しい。</p> <p>◎2名の生徒がサポートを受けている。両名とも順調に学校生活を送っている。</p> <p>◎各学期末に定期点検を実施</p> <p>▲一部施設・設備の老朽化が見られる。</p>	3.0	<p>路変更は別として学校で最も長く過ごす、授業改善が進むような組織作りを推進していく。</p>	3.0	<p>・中途退学者が少し多いように見受けられる。一人として取り残さない教育ができるのが理想と思う。今後も検討をお願いしたい。</p> <p>・中途退学者が数字としては目に付くが、学びの多様化で選択肢が増えていることも事実であるで、生徒の将来を一番に考えた対応をお願いしたい。</p> <p>・鵬ドリカム講座は長期に渡り取り組みを継続されていて、生徒の将来展望の考察に有効であり、今後も益々充実させていただきたい。</p>
<p>②キャリア教育等による人間教育の推進</p> <p>・郷土愛に繋がる課題研究等への積極的な取組推進</p>	<p>■鵬ドリカム講座</p> <p>◎10月14日(土)を出校日として実施</p> <p>◎基調講演も復活させ3年生も受講する。</p> <p>■探究活動</p> <p>◎MSECフォーラムへの生徒の自主的参加数の維持ができた。</p> <p>◎高校生サイエンス発表会参加者数の増加(12名→18名)</p> <p>◎連携校主催の活動への生徒参加の呼びかけを行った。(広島大学、宮崎大学の先取り履修への参加の促し)</p> <p>▲MSECフォーラムやサイエンス発表会以外への発表会参加の開拓</p> <p>■県外への人口流出を防ぐ手立て</p> <p>▲2学年探究活動終了後の進路への生かし方の検討</p>	<p>◎MSECフォーラムへの生徒の自主的参加数の維持ができた。</p> <p>◎高校生サイエンス発表会参加者数の増加(12名→18名)</p> <p>◎連携校主催の活動への生徒参加の呼びかけを行った。(広島大学、宮崎大学の先取り履修への参加の促し)</p> <p>▲MSECフォーラムやサイエンス発表会以外への発表会参加の開拓</p> <p>▲2学年探究活動終了後の進路への生かし方の検討</p>	3.0	<p>・鵬同窓会には本行事以外にも物心両面で多大なるご支援をいただいている。期待に添えるような生徒育成に最大限努めたい。</p> <p>・2年生3学期の総合的な学習の時間を進路～探究図書～学年間で連携を図りながら個に応じた対応も図っていく。</p> <p>・難関、超難関大学への探究～進路間の連携を学年の理解も得ながら進めていく。</p> <p>・毎年の活動の振り返りを実施する。また、2学年の活動の最後には探究活動に関する小論文にチャレンジさせる。探究活動を利用した入試についても生徒に積極的に伝えていく。</p>	3.3	<p>・県外流出を防ぐという観点よりも、いずれ宮崎に貢献できる人材を育成するという視点で今後もご指導いただきたい。</p> <p>・「探究学習」「地域連携」によって、「豊かな人間性の醸成」に関して生徒や教師、学校がどのように変容したのか検証していただきたい。</p>
<p>③生徒の主体性を重視した取組の推進</p> <p>・生徒会活動の更なる活性化</p> <p>・部活動の更なる活性化</p>	<p>■1年生の初期指導(FORM)</p> <p>①学習・生活に関するオリエンテーションの実施</p> <p>■部活動</p> <p>■校則見直し</p> <p>■女子スラックス導入</p> <p>■主権者教育</p> <p>①法に関する学習(統一LHR)</p> <p>②模擬投票</p> <p>■生徒委員会活動</p> <p>■ボランティア活動</p>	<p>◎年度当初のFORMを通して、1年生に全般的な指導を行うことができた。</p> <p>▲教科に関する指導を初めてZoomで実施したが、改善点も多く見つかった。</p> <p>◎様々な部活動が上位大会に進出するなど活発な活動が行われている。</p> <p>◎キャプテン会による自主的な下校指導が行われた。</p> <p>◎一部見直しされた服装容儀規定が生徒総会での共通理解を経てスタートした。</p> <p>▲生徒会及び各種委員会主導の自主活動の一層の支援(服装容儀一斉指導と生徒「風紀委員会」による啓発活動のバランスの確保、代議委員会による男子用セーターの検討など)</p> <p>◎特段問題点などは無い。</p> <p>◎7月12日(水)7限目のLHRに3年生の生徒を対象にした「宮崎南高校主権者教育」を実施。宮崎公立大学の選挙啓発部「ライツ」の学生の支援を受けて実施した。</p> <p>◎各実行委員会(西校定期戦、クラスマッチ、鵬祭)が機能し、各行事の通常実施に向け、全校生徒への積極的な働きかけが行われている。</p> <p>▲保護者、地域と連携するボランティア活動を含めた校外の行事の調整が必要。</p>	3.0	<p>・「予習→授業→復習」の黄金スタイルを早期に確立し、3年間を見通した学習習慣が確立されるよう「南高スタイル」を完成させる。</p> <p>・国数英のガイダンスの配当時間の調整</p> <p>・服装容儀規定の確認とルールやマナーに対する規範意識のさらなる醸成</p> <p>・部活動生集会での勉強との両立の優れた実践例の共有</p> <p>・下校指導の継続実施</p> <p>・現行規定の遵守へ向けた啓発活動の充実</p> <p>・学校生活改善へ向けた生徒会主導の提案や企画の一層の充実</p> <p>・自転車通学時ヘルメット着用の9月スタートへ向けた計画的な取り組み</p> <p>・令和8年度4月着用へ向けた制服、防寒着、バッグなどの計画的な検討</p> <p>・生徒会と各種委員会及び実行委員会のさらなる連携を通じた新企画の早期立案とその実現に向けた計画的な取り組み</p> <p>・寺子屋活動、児童クラブのお手伝いなどを通じた地域との更なる繋がり</p>	3.1	<p>・部活動と勉学の両方について実力が発揮できるという学校の環境は素晴らしいと思う。継続的に推進していただきたい。</p> <p>・生徒の参加を含む校則の見直しの促進を期待する。</p> <p>・様々な側面からのアイディアを駆使しながら、豊かな人間性の醸成を行った。</p> <p>・主権者教育は重要な取り組みで、高く評価できる。選挙の重要性について、理解を深められたと思う。</p> <p>・引き続き主権者教育の強化・充実をお願いしたい。</p> <p>・地元で貢献できる人材育成が本校の魅力の一つと思われる。</p>
<p>4 特色・魅力ある学びの提供</p> <p>○全校生徒が自信と誇りを胸に語れる本校の特徴の充実・発展</p> <p>〈キーワード〉</p> <p>①普通科・フロンティア科</p> <p>②55分授業</p> <p>③文武両道</p> <p>(創立62周年)</p> <p>⑤進路実現</p>	<p>■本校の特色ある学びの発信</p> <p>・高校説明会</p> <p>・授業公開</p> <p>・オープンスクール</p> <p>・学校パンフレット</p> <p>・学校ホームページ</p> <p>■PTA活動の活性化</p> <p>・学校行事や環境整備への協力</p>	<p>◎オープンスクールを昨年度から一部変更して、より良い形となるようにした。</p> <p>◎6月、11月に授業公開を実施</p> <p>◎10月11日に秋のオープンスクールを実施</p> <p>◎パンフレット及びポスターを7月末日までに納品することができた。</p> <p>◎学校HP、フェイスブック、Instagram、Classiを活用して、緊急時の対応及び各行事における生徒の様子等をスムーズに発信できた。</p> <p>▲HPや各種SNSの活用について、関係部署と円滑な連携を通して、様々な方面から本校の魅力発信を行い、更なる充実を図りたい。</p> <p>◎PTA各種委員会活動も順次スタートしている。</p>		<p>・次年度の原稿準備を本年度3月中旬に着手する。</p> <p>・継続的に情報発信できる担当職員・担当生徒を割り当てる。</p> <p>・生徒主体の情報発信に努める。</p>		<p>・オープンスクールの充実は大変なことだと思う。その結果がすぐに出るとは限らないので、3～5年かけてより充実したものとしていくと良いかと思う。</p> <p>・「生徒が真ん中、楽しく学べる学校」が本校の魅力だと思う。</p> <p>・部活動も勉強と両立しながら取り組める体制、考え方は非常に魅力がある。先生方が頑張りすぎていないかやや心配している。</p> <p>・活動や魅力発信にSNSを</p>

<p>⑥教育の情報化</p> <p>⑦PTA・鵬同窓会</p> <p>⑧生徒が主役</p> <p>⑨都市型 コミュニティ・スク ール</p> <p>⑩地域の学校</p> <p>⑪探究的な学び</p> <p>⑫高大等連携</p>	<p>・広報活動</p> <p>■Classiの活用拡大</p> <p>・クラウド型教育プラットフォーム</p> <p>・各部、学年、教科で多様な活用</p>	<p>◎PTA広報委員会で、PTA新聞の編集作業を実施</p> <p>◎Googleクラスルーム等を活用した生徒の個人端末を活用した各教科での授業で活用する体制が一定程度定着してきた。</p>			<p>活用し、情報発信の強化を継続して欲しい。</p> <p>・SDGsは探究学習をはじめ学習や活動のさまざまな面につなげて促進してほしい。</p> <p>・特色・魅力ある学びの提供は、生徒確保において重要。数多くの素晴らしいことに取り組みされており、これらの取組については是非、各種メディアを活用し、受験を控えた中学生に伝えることが重要だと思う。戦略的な広報活動に努めたいだけだと思う。</p> <p>・探究活動、大学との連携、教師未来セミナーなど多くの取組が行われていることは評価できる。報道等でも目にすることがあり、充実している。しかし、その成果とこれらの取組が、生徒にとって、また、進学先を検討している中学生にとって魅力となっているのか、検証が必要である。</p> <p>・情報発信については、校長のリーダーシップの下、頑張っていると思う。</p> <p>・学習面で言えば、高校入学時の成績から3年生でどれだけ伸びたか、具体的な数字があると生徒自身も自信が持て、南高校で良かったと思うのではないかと。また中学校の説明会でもアピールできると思う。</p> <p>・「探究学習」「地域連携」によって、「特色・魅力ある学びの提供」に関して生徒や教師、学校がどのように変容したのか検証していただきたい。</p> <p>・様々な側面からアイデアを駆使しながら、特色・魅力ある学びの提供を行っている。宮崎県内、及び九州地区において注目されるような一層の特色・魅力を強化してもらいたい。特色・魅力については、マスコミ等を活用した広報についてもより一層期待したい。</p>
	<p>■三菱みらい育成財団プログラム ・コミスク活動の原資</p> <p>■地域連携・大学連携</p>	<p>◎三菱みらい育成財団の助成金よりフロンティア科だけでなく、普通科も外部機関からのメンター補助を設定できた。</p> <p>▲次年度が助成最終年度となるため、自走できるプログラムの開発が必要</p> <p>◎9月に新たに宮崎公立大学と連携協定を結んだ。(6大学目)</p>		<p>・個別最適な学びを実現するには最適なサービスなので、有効活用できるよう指導者側も学んでいく。・新課程と同時に新調査書となるため、生徒のポートフォリオへの記録が重要となる。そのことをしっかりと理解させていきたい。</p> <p>・大学側の多たなる協力体制を進路実現に結びつけられるような企画を行っていく。</p>	<p>3.4 3.4</p>
	<p>■図書館利用活性化</p> <p>・利用しやすい図書館に向けた取組</p> <p>・生徒アンケート実施</p> <p>・進路、探究関係図書の充実</p>	<p>◎図書館通信の教室掲示</p> <p>◎図書館終礼の実施</p> <p>◎寄贈本の増加</p> <p>◎返却本ポストの設置</p> <p>◎図書委員会講習会への生徒参加</p> <p>◎SDGsコーナーの設置</p> <p>◎探究学習に関するコーナーの設置</p> <p>▲南の100冊の入力の推進</p> <p>▲各月の展示物の充実</p>	3.1 3.1		
	<p>■ICT活用教育</p>	<p>◎Google for Education及びClassiを全生徒・全職員が使えるような環境設定の整備等を行うことができた。</p> <p>◎生徒のタブレットの操作能力が高い。</p> <p>▲中途退学した生徒が手続き終了と同時に名簿上から削除される校内連絡体制が必要。</p> <p>▲ICTを利活用する方法について、先生方に広く周知する機会(研修等)が必要である。</p> <p>▲個人端末の校内における利用上のルールを全校生徒に再度周知・徹底する必要がある。</p>		<p>・ICTを活用した授業の好事例を職員研修で共有する。</p> <p>・有効な教材を共有ドライブで共有する。</p> <p>・教務部、事務部と連携し、中途退学者の把握に努める。</p> <p>・年度初めに校内における利用上のルールを全校生徒、全職員への周知を徹底する。</p>	
	<p>■一人一台端末</p> <p>・探究活動での活用効果大</p> <p>・校内ガイドライン、ルールの検討</p> <p>・生徒の情報モラルの育成</p>				
	<p>■教員志望生徒への支援体制</p>	<p>◎教師みらいセミナーを引き続き実施</p>		<p>・6、7、9、10月の計4回の貴重な機会を確保し、生徒の夢実現および教師のなり手不足解消に貢献する。</p>	